

# 新聞に親しみ 新聞に学ぶ ～共に学び、伝え合う子どもを目指して～

芦屋市立山手小学校 校長 中村 整七  
教諭 佐伯 千紘

## 1. 実践の概要

本校は芦屋市の山手に位置し、地元の人々が昔から居住している伝統ある地域である。また、家庭的に恵まれた環境にあり、学校教育への期待が大きく、知的好奇心の強い子どもが多く住む地域でもある。

現代、さまざまなメディア、スマートフォンやタブレット端末といったツールの普及により、子どもたちが新聞に触れる機会が減少していくことが懸念される。子どもたちが日々どのくらい新聞に触れ、どのように生活に生かし、メディアに対してどのような意識を持っているのか、子どもの実態を見ながら取り組んだ。

そして今回、5年生を対象に「子どもたちに新聞への興味を持たせる活動」、「新聞記事から学び取らせる活動」、学んだ事柄を生かし、「取材したことや自分の考えを発信させる活動」の3つの観点で実践を行った。

## 2. 新聞の置き場と整理の方法



本年度は、5年生教室前のオープンスペースにNIEコーナーを設置し、6社の新聞に毎日触れ、手軽に読み比べられる環境を作った結果、朝や休み時間に好きな記事を選んで読むこと

が日課となっている子どもが見られた。

また、前日までの新聞は新聞社ごとに整理して保管したため、過去の新聞から、教材づくり、多様な読み比べ、社会科で活用できる資料の収集が可能となった。

## 3. 実践の内容

### (1) NIE アンケート

本学年で NIE の学習を進めるにあたって、ニュースや新聞に関するアンケートを実施し（計 133 人）、子どもたちの実態を調査した。以下は、結果の中でも特徴的なものである。

ニュースを知る方法（複数回答可）として「テレビ」を挙げた子どもが 118 人と最も多く、「新聞」68 人、「インターネット」36 人となった。

興味のある記事は、「スポーツ」が 50 人と最も多く、「事件や事故」47 人、「漫画」40 人と続き、子どもは読みやすい内容が中心。

新聞を読む頻度は、「よく読む」19 人、「ときどき」56 人、「あまり読まない」38 人、「全く読まない」22 人。読まない理由（複数可）としては「新聞を購読していない」21 人、「テレビやネットを使う」13 人と続いた。また「子ども新聞」を購読している 35 人中で、29 人は新聞を読んでいるという結果から、身近に新聞がある子どもは比較的新聞を読んでいる。

これらの結果から、ニュースを知る方法はさまざまだが、興味のある記事だけでも、新聞に触れる機会を増やす必要があると分かった。

### (2) ゲストティーチャー・新聞社見学

子どもが新聞に興味を持てるきっかけとし

て毎日新聞社の伊地知克介・阪神支局長を特別講師として招き、新聞の作り方や記者の仕事、新聞の読み方の工夫、新聞で伝えたいことなどを知ったり、社会見学（読売新聞社）に行つて新聞ができていく様子を実際に見たりした。

特に、新聞記者の仕事やレイアウトの秘密について興味を持つ子どもが多く、読み手と書き手の意識の違いに気づく姿が見られた。



ゲストティーチャー

**【子どもの作文より】**

私は毎日新聞の記者さんの話を聞いて、新聞の色々なことについて知りました。

まず、最初に知ったのは、一番大きな事から（メイン、主に政治関係）を右上、題字の横に大きく書くことです。阪神・淡路大震災や東日本大震災などの大きな災害や日本の一大事の時にはとても深刻なので、見出しの文字を白く、太くして、見出しの囲いを黒くしていることが分かりました。

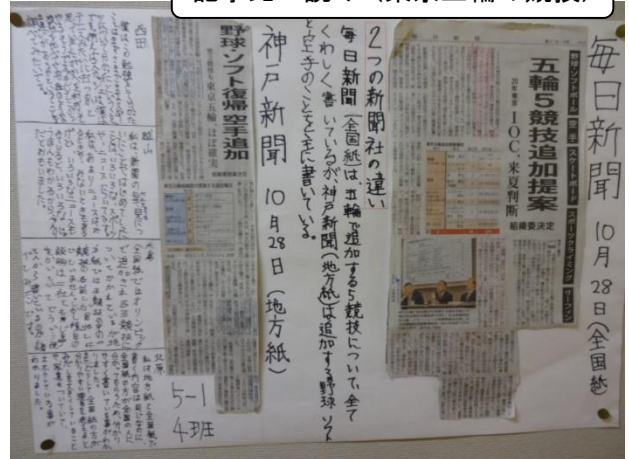
私が驚いたのは、取材の後に編集、さらに校閲（内容や誤字脱字のチェック）をすることです。いつもしめ切り時間ぎりぎりまで新聞を作つて、印刷するのは真夜中だと聞きました。印刷量（輪転機）は1時間に最大約15万部だと聞いて驚きました。

1部数枚の新聞には色々な工夫や多くの人、手間と時間がかかっていることを学びました。私は今まで、まったく新聞を読んでいなかったけど、新聞記者さんの話を聞いて、新聞の色々なことに興味を持ったので、これからは新聞を読んでみようと思いました。

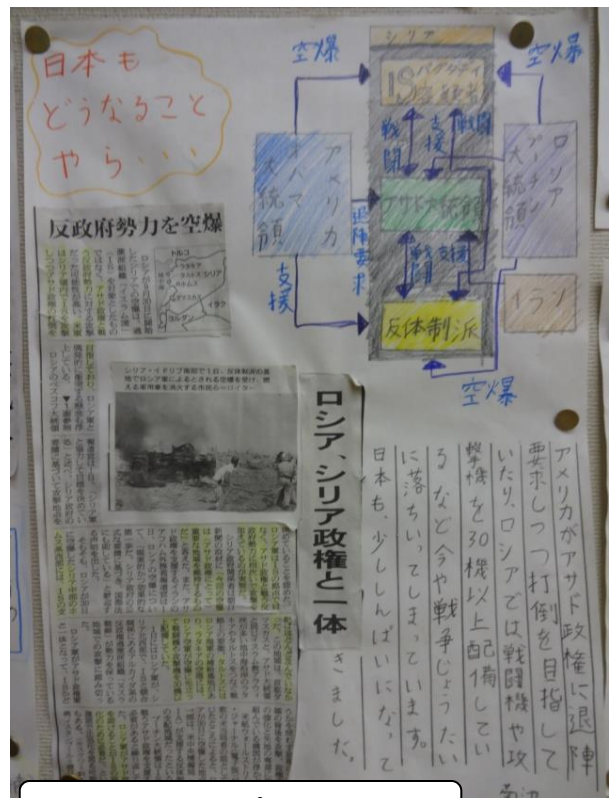
(3) 新聞記事のスクラップ

5年生では、国語の学習に「新聞を読もう」という単元がある。その内容と関連させ、5W1Hや逆三角形の構成（見出し、リード文、本文）、全国紙と地方紙（神戸新聞）の記事比較などから、読み手を意識した表現の工夫について学んだ。

記事比べ読み（東京五輪の競技）



子どもそれぞれが選んだ新聞記事の切り抜きを台紙に貼り、記事内容やおすすめポイント、感想や自分の考えを書き加える活動を通して、新聞を読むことへの意欲を高める。また、記事の紹介や感想を子ども同士で伝え合い、記事に対する多様な考えに触れさせた。



記事のスクラップ（シリア情勢）





スクラップの交流



スクラップの教室掲示

また、グループで共通の新聞記事を使い、協力して記事の内容を理解させたり、感想を交流させたりして、記事に対する読みや自分の考えを深めさせる。そこで作成したスクラップを学年の共有スペースに掲示することで意欲につながり、クラス間の交流を図った。



NIEコーナーで共有

このように、好きな記事を選べるため新聞記事に親しみを持たせ、記事や自分の考えを相手に伝えようとする中で、内容の読み取りの力や要点を整理する力がつけさせられる。そして、ニュースと自分とのつながりに気づいたり、社会の出来事への興味を広げたりするきっかけになる活動となった。

### (3) グラフや表を使った新聞記事

新聞記事の読みをさらに深めさせるため、グラフや表などの資料を使った記事を活用し、そ

れらの資料が示す問題点や、記事の中で伝えようとしていることを理解させた。その際、子どもが自分の考えを持ちやすく、子ども自身の生活につながる問題を取り上げた記事を選んだ（グループ内共通）。グループごとに違う内容の記事であるが、関連する部分の多いテーマを設定し、自分の記事や考えと比較したり、質疑応答したりしやすいものを取り上げた。

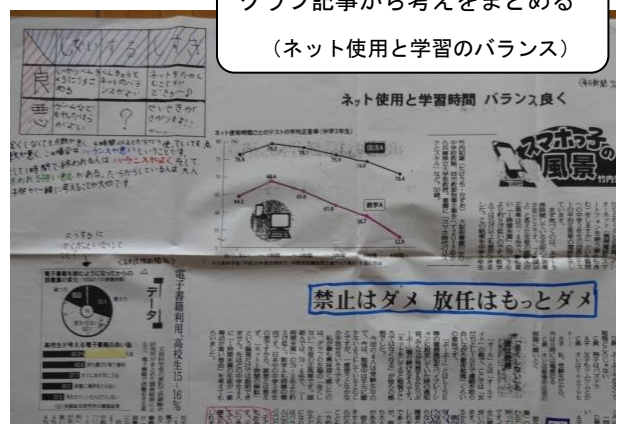
#### 【選んだ新聞記事の見出し】（新聞社）

- 若者の断定避ける「ぼかし言葉」拡大（神戸）
- 大和の表現「美しい言葉」の必要性（朝日）
- 言葉遣い「ゲーム影響」47%（日経）
- 「本を読まなかった」20歳代が最少（読売）
- ネット依存に潜む深刻な危険（神戸）
- ネット依存 県内高校生8.3%（神戸）
- 大学生の費やす時間 本からスマホへ（朝日）
- 電子書籍利用、高校生15~16%（日経）
- 調べ物「ネットで」6割（朝日）
- ネット使用と学習時間 バランス良く（毎日）

グループ共通の記事から、まずは個人でキーワードやキーセンテンスに線を入れたり、グラフと本文のつながりを矢印などで書き入れたりしながら読み取り、スクラップに自分の考えをまとめていく。

その後、グループで意見交流しながら拡大した記事入りの模造紙に直接書き込み、全体の場でグループごとに発表する。その際、グラフの一部を隠して、言葉や数値を予想させるクイズを取り入れる参加型の活動によって、他グループの記事への関心や理解を高めることにつながった。

グラフ記事から考えをまとめる  
(ネット使用と学習のバランス)





クイズでグラフを予想



記事を使ってグループ発表

最後には、国語「表やグラフを用いて書こう」につなげ、自分の考えを裏付ける資料を効果的に用いながら自分の考えを文章で表現させた。

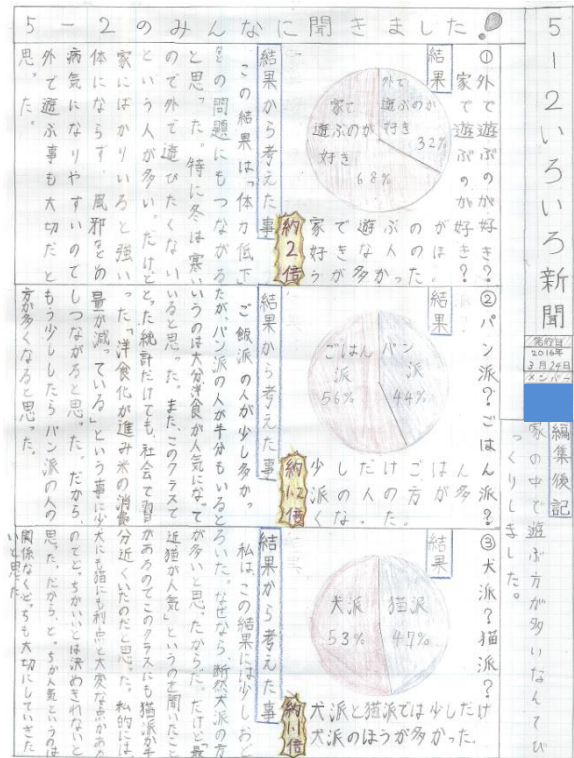
2学期当初から、個人やグループで記事のスクラップを作る活動の継続により、記事から分かる事実や伝えたいことを読み取れる子どもが増え、今回、グラフや表を使った記事を取り入れたことで、「内容がより分かりやすくなる」「記事内容の根拠となっている」といった、グラフや表を使う効果について実感させられた。さらに、今後、自分たちが「新聞を作る側」に立ったとき、分かりやすく伝えるための参考となった。

#### (4) 5年〇組 ニュースを伝えよう

子どもたちは1年間を通して、新聞などから「情報を受ける側」の視点に加え、社会科「情報を伝える」や道徳「情報モラル」の学習など「情報を発信する側」の視点でも、生活における情報の重要性について学んできた。

そこで、NIEのまとめとして「5年〇組ニュースを伝えよう」というテーマを設定し、報道する側の立場で1年間の学級での出来事を発信する活動を行った。

報道の形式は「テレビ番組」「新聞」から選び、グループに分かれて取材や編集、原稿作り、撮影や印刷を計画的に進める。その際、伝えるときの工夫や取材の仕方、個人情報などのルールといった学習を生かせるようにした。クラス遊びや自然学校でのエピソードを伝えるグループ、好きな給食や本などをアンケート調査するグループなど、1年間の思い出を振り返りながら意欲的に取り組む姿が見られた。



#### 4. 実践の感想と今後の課題

この1年間の実践を通して、新聞がより身近になり、新聞に限らず報道に対する関心が高まっているようだった。ネットやテレビによる報道の良さがあれば、新聞による報道の良さがある。それぞれのメリット・デメリットを理解した上で、メディアを使い分けることも大切だと感じる子どもが多く見られた。

課題としては、新聞を購読していない家庭が増えているという現状がある。タブレットの普及がそれを加速させているかもしれない。一度新聞を読んでみると「なるほど」と思える子どもが多かっただけに、学校で新聞を読む機会を増やすと同時に、家庭とも連携していく必要があると感じた。